

## 勝手に逃げる／人生 (1979)

SAUVE QUI PEUT  
LA VIE

メディア 映画  
ジャンル ドラマ  
製作国 フランス／スイス  
色彩 Color  
時間 98分  
初公開日 1995/04/29  
公開情報 広瀬プロダクション  
リバイバル 2003/04/05 [ハピネット・ピクチャーズ＝アニー・プラネット]

## 【解説】

'68年の5月革命以降、“ジガ・ヴェルトフ”集団を結成し、より政治色を深めたゴダールは'72年の「万事快調」を最後に、商業映画から完全撤退、私生活上のパートナーでもあるA=M・メルヴィルと共にビデオによる視聴覚メディアの実験的作品に没頭していたが、'79年になって突如、この35ミリ作品を発表、その清冽な映像で再び映画作家として新たなスタートを切った（彼自身、本作を“第二の処女作”と呼んでいる）。主人公はライターのドゥニーズ（N・バイ）、その愛人のTVディレクター、ポール・ゴダール（J・デュトロン）、娼婦イザベル（I・ユペール）の三人の男女。スイスを舞台に『1＝勝手に逃げる』『0＝人生』という短い導入部に続き四章立てで、労働→人間（男女）関係→家族制度→権力、という基本的な生の拘束への考察が、彼らのごく日常的な生活断片のスケッチから語られる。『1＝想像界』では都会を捨て田舎暮らしを始めようとするドゥニーズの覚醒が、『2＝不安』では家族とも冷めた関係に陥り、行き場のないポールの焦燥が、『3＝商売』では田舎を出て都会で売春をしようというイザベルが描かれ、『4＝音楽』において、この三者が合流し、それぞれ新たなベクトルを指し示す。ゴダールの原案をもとにジャン＝ピエール・メルヴィルやルイス・ブニュエル作品で知られるJ=C・カリエールが脚本を担当。G・ヤーレの音楽も斬新。スローモーションなど、ゴダールには珍しい俗っぽい技法も使われ、コメディ的な側面が強調されている。

## 【クレジット】

監督 ジャン＝リュック・ゴダール Jean-Luc Godard  
製作 アラン・サルド Alain Sarde  
ジャン＝リュック・ゴダール Jean-Luc Godard  
脚本 アン＝マリー・メルヴィル  
ジャン＝クロード・カリエール Jean-Claude Carrière  
撮影 ウィリアム・ルプシャンスキー William Lubtchansky  
レナート・ベルタ Renato Berta  
音楽 ガブリエル・ヤーレ Gabriel Yared  
出演 ジャック・デュトロン Jacques Dutronc  
ナタリー・バイ Nathalie Baye  
イザベル・ユペール Isabelle Huppert  
ローランド・アムスタッツ  
セシル・タナー  
アンナ・バルダッチニ Anna Baldaccini